

# わたしの意見

掲載 議席順

(議長は採決に加わりません)

## 賛成

織田 昭雄

パノラマスキー場は「富士見町の観光戦略」を進める上で八ヶ岳山麓裾野と入笠山が柱となる重要な拠点です。この双方が連携して観光事業を成功にみちびく事が富士見町を存続、発展させるための大切な施策です。また、将来を見据えるとパノラマリゾートは西山地区の活性化のためにも無くしてはならない施設です。そのためにもパノラマリゾートが一日も早くひとり立ちをしていくために必要な歳出であり、町の健全財政を保つためにも今までの様にお金を出し続けることはできません。過去2回の支援については、改めるべきは改めて、十分な仕分けをして議会も十分なチェックをする。借りたお金は返済するのが当たり前、10年後負債をゼロにするために決断しました。

## 賛成

小林 光

パノラマが消えたとき、町はどのようになるのか、考えてもらいたい。観光からはじまり町全体が衰退する。パノラマだけの問題ではなくなる。なんとしても再生しなければならない。パノラマは町が生んだ子供。まだ自立できない子を親として育てる責任がある。10億円の大部分が、どうしても返さなければならない町の借金の返済にあてられる。よってこれはパノラマのことというより、町自体の借金を解決することであり、安い利息で預けてある剰余金(基金)を有効に使うことによって、高い利息を払っている借金をなくすこと。その結果、多大な利益が生まれる。

今後10年や20年、地球の温暖化はない。雪不足の心配はいらない。

## 反対

名取 武一

町は、この5年間、年間3億円もの経費節減で黒字を継続している、と説明しました。

しかし、3億円の経費節減は、払うべき家賃2億3千万円を猶予して、さらに設備修繕に5千万円投入、3億円近い町税を投入したから開発公社が黒字になったに過ぎません。

これを開発公社の努力で黒字になったという。町は情報開示と言いながら、このようなごまかしで町民の合意を得ようとしていました。

また、私たちはあるスキー場では金融機関に債権放棄をさせた上で再建した事例を学びました。町民の多くの方から、出資者である金融機関の責任追及をとの声が上がっています。この立場からも、町の基金の10億円投入には反対です。

## 賛成

エンジェル千代子

私は今までパノラマ支援について反対してきました。また、借金を一気に返すべきだとも提案してきました。

新町長となり町民が一番望むことは、経営体質の刷新であると思います。また、温暖化・不況・施設の老朽化など不安材料は多く、私は一日も早くパノラマと町を切り離すべきだと考えています。まず、それらの点を一年間議論すべきだと考えましたが、先延ばししても、どんな結論に達するかは見えません。

この3ヶ月間いろいろな方に相談し悩み続けました。そして最終的に、「民営化」の第一歩と評価できるこの案が町民にとって有益であり正しい判断だとの思いに至り、賛成と決断しました。

## 反対

小林 市子

10億円を貸し付ける議案に対して、町が買い取った施設費の残18億円の利率の高い起債を優先すべきと質問。町は、金融団とトップ交渉したくてもパイプが無いので無理と言う答弁。対案として、開発公社の債務保証分7億3千万円を含む8億円で減額補正の修正動議を出しました。

町には、『富士見町地域振興資金貸付要綱』があります。平成12年12月の告示第77号の要綱が、今回の10億円の貸し付基準になります。5条で(16億円を上限)、6条で(無利子)、7条では(期間を55年)としています。第11条の貸付方法できちんと実施すべきです。内容の情報公開と公正な事務処理が必要であり、補正予算(第8号)原案についての反対を表明しました。

## 賛成

中山 孝

私は借金は早く返済し、子々孫々まで残すべきではないと考えます。基金からの返済は賛成で、残額の基金で大災害等緊急時の対応は可能だと思います。

現在パノラマスキー場は、全従業員 노력によって健全経営であり、10億円の貸し付けによって更に意識改革が進み、町民の期待に答えて頂けるものと信じています。新計画は実行可能であり、町内への経済波及効果は売上金の2倍以上と予想され、将来町の観光戦略の基礎となると信じます。

町の財政は厳しいですが、新計画を町民の皆さまのご協力によって成功させ、今後の町の経済対策、福祉、少子化、将来への投資が安定し、富士見町の活性化に必ずや連動するものと考えます。